



APAY eNews

翻訳: 永岡美咲 (日本Y M C A同盟)

アジア・太平洋Y M C A同盟 2012年 常務委員会報告

アジア・太平洋Y M C A同盟 (APAY) の年次常務委員会が、3月7日～9日、香港中華Y M C Aシティービューホテルにて開催されました。20の国・地域のY M C Aから、約100人のトップリーダーシップが出席しました。

今回の常務委員会の重要な議事のひとつは、新たに理事を2人選出することでした。3人の候補者のうち、ン・イーカイ (Ng Yee Khai) 氏 (マレーシア) とニラニ・マトリナヤケ (Nilani Manthrinayake) 氏 (スリランカ) が選ばれました。偶然にも、ユースとジェンダーの両委員会から選ばれ、長い間思い描いていたことがそのとおり実現し、両委員会はどことなくうれしい様子でした。

この会議は規約上、新しい4か年の始まりでもあり、2つの常置委員会の委員長・副委員長の選挙が行われました。ユース参画とリーダーシップ開発委員会には、委員長・副委員長として、アルビン・カン (Alvin Kan) 氏 (香港) と Philip Damion Arumagam 氏 (スリランカ) がそれぞれ選出されました。また、ジェンダー公正委員会には、アン・トーマス (Ann Thomas) 博士 (インド) とエマニュエル・チャン (Emmanuel Chan) 氏 (フィリピン) がそれぞれ委員長・副委員長に選出されました。

特に、常務委員会出席者に公開されたアジア・太平洋Y M C A大会決議およびユース・アッセンブリー宣言に基づく戦略計画は、何度か改訂された後、賞賛をもって承認されました。これによって、新たな戦略計画にアジア・太平洋地域のY M C Aの主張が盛り込まれました。他の常務委員会での議論も、集中して白熱した話し合いになりましたが、すべて合意した結論に達しました。したがって、常務委員会は成功裡に終了し、一丸となって戦略的な方向へ進むことができました。

常務委員会に先立ち、APAY と香港Y M C Aの共催で、トップ・リーダーシップ・トレーニングが行われました。この研修には多くの参加者が集まりました。歓迎夕食会では、「チェンジ・エージェント」として著名なボブ・ノウリング氏より、非常に印象的な基調講演をいただきました。常務委員会の会期後には、リソース・モビライゼーションに関する研修が行われました。マヌエル・カマレナス氏 (メキシコシティーY M C A)、Ron Coulombe 氏 (カナダ・エドモントンY M C A元副会長) がリソース・スピーカーとして招かれました。約30人が参加しました。

全体として、この1週間は多くの学びの体験や今後4年間の新たな課題に満ちたものでした。APAY とアジア・太平洋地域のY M C Aは、今回の常務委員会から始まった2012年 - 2015年の4か年に最善を尽くす所存です。



左: APAY 常務委員会の出席者が20の国・地域のY M C Aより、香港中華Y M C Aシティービューホテルのダイヤモンド・ホールに集いました。
右: ユース・リーダーとユース関連のスタッフが常務委員会中のユース常置委員会に出席しました。

常務委員会に委員・スタッフを派遣くださったすべての国・地域のY M C Aに感謝します。また、今年の常務委員会の運営にご協力くださった、香港Y M C Aおよび香港中華Y M C Aに心から感謝申し上げます。

日本からは、島田茂同盟総主事、岡戸良子氏 (横浜Y M C A常議員・APAY 常務委員)、中村あずさ氏 (学生Y M C Aシニア・APAY ジェンダー委員)、黒澤伸一郎氏 (横浜Y M C A会員・同盟常議員・APAY ユース委員)、橋崎頼子氏 (神戸Y M C A常議員・APAY ユース委員) が出席しました。

YMCA最新情報 インドネシアYMCA

2012年3月4日、継続中であったスラバヤYMCAとインドネシアYMCA同盟への訪問、調査、オリエンテーション、常議員、APAYスタッフおよびPSG (Partners Support Group)との会議が行われ、インドネシアYMCA同盟からスラバヤYMCA運営・経営にかかるリーダーシップの移管が終了しました。

スラバヤYMCAとインドネシア同盟のYMCAの戦略計画の策定、スラバヤYMCAの新しい主任主事の常務委員会による任命が行われ、今後の4か年におけるAPAYの重点方針の提示と、YMCAの常議員との学びが共有され、それぞれのYMCAでの責任において勢いを加速するようなプロセスが期待されています。

スラバヤYMCAに期待されているのは、下記のプロセスとコミットメントです。閉校の準備をすること(現段階で、学校運営の継続は困難なため、閉校の計画やプロセスを計画・準備する)。次年度に向けてプログラムを充実させること、以下の条件に見合う2人のスタッフ(総主事とプログラムスタッフ)を採用すること。条件としては特に、効果的なリーダーシップの研修やその準備ができ、YMCA運動強化へ導くことができること。責任を果たすYMCAとして、コミュニティーにおける新たなイメージを開発するためにユースや女性のためのプログラムの運営ができること。学校の設備や建物の屋根を直すこと。委員やスタッフへの研修の計画、運営、実施ができること。提案された職業訓練学校とホステルの実行可能性の研究を長期的な計画として行うことなどが挙げられています。

一方、インドネシア同盟にも、インドネシアにおける組織の法人格準備に関する協議を行います。会則や細則、使命(ミッション・ステートメント)を熟慮、再検討、改定すること、提案された改定を承認するための年次会合を開くこと、インドネシアでのYMCA運動を強化する新しい方針と承認に関して協議するための新たなリーダーを選出することが求められます。

APAYは、インドネシア同盟と密接に協働し、スラバヤYMCAと同盟のスタッフに助言や指導を行い、提案された戦略計画の実現を確かなものとします。

同時に、両YMCAは密接に協働し、財産/不動産に関する問題、それぞれのYMCAにおける法人格や登記の問題を含む、内部のさまざまな問題に取り組んでいきます。係争中の財政債務を決着するための問題解決に関する交渉は、財産/不動産の問題と絡んでいます。したがって、スラバヤYMCAとインドネシア同盟のリーダーシップは、双方に利益のある選択を考慮して、アジア・太平洋地域においてよい財産を残し、YMCA運動の利益を確保することが期待されています。

YMCAリージョナル・ユース・カンファレンスが 7月、シンガポールで開催されます

過去3回のアジア・太平洋 大学ユース・リージョナル・カンファレンス(APUY-RC)を引き継ぎ、APAYとシンガポールYMCAは、今年最大の会議、YMCAリージョナル・ユース・カンファレンスを、「ステップ・アップ: 鼓舞する、教育する、関与する (STEP UP: Encourage, Educate, Engage)」をテーマに開催します。2012年7月17日から22日、シンガポール国立大学Uタウンで行われます。

このカンファレンスは、ユース・リーダーシップ能力の開発や社会的責任ある関与のためのニーズを刺激することに焦点を当てています。この目的は、ユース・リーダーたちが内に持つ才能、スキル、可能性を解き放つよう「鼓舞」し、他のユース・グループの事例やよい事例について、さらにリーダーシップ・スキルの領域における潮流を「教育」し、各所属YMCAで自発的に参加するよう「関与」します。

すべてのアジア・太平洋地域のユースのための計画や準備にかかるシンガポールYMCAと本カンファレンス実行委員会のご尽力に感謝申し上げます。

参加希望者は日本YMCA同盟にお問い合わせください。

APAY 新理事の紹介

昨年(2011年)の常務委員会の決定のとおり、新たに2人の理事が選出されました。2012年3月7日、香港中華YMCAシティービューホテルでの選挙で選ばれた2人を紹介します。

ン・イーカイ氏は現在クアラルンプールYMCAの理事を務めています。2010年から、マレーシアYMCA同盟のユース委員長です。また、エキュメニカル・アジア・太平洋ユース・ネットワークのコーディネーターでもあります。さらに、2007年からユース参画リーダーシップ開発委員会にも所属し、活動しています。常務委員会の他にも、第2回ユース・アッセンブリーでは共同議長を務め、高齢化対策フォーラム、ジェンダー・トレーニングワークショップ、YMCA地球市民に関する円卓会議、2006年の世界大会等に続けて参加しています。



ニラニ・マトリナヤケ氏は2006年からスリランカのモラトゥワYMCAで法務委員会に所属し、活動しています。2011年にスリランカYMCA同盟から常務委員に任命されました。彼女が歴任したのは、モラトゥワYMCAのディレクター、ジェンダー委員長、法務・平和・公正委員会の委員長などです。



2人は、6人の役員と共に4年間任期を務めます。改めて2人を祝福し、APAYの前進による広大な地平を期待します。

APAY スタッフ 新たな道へ

今回の常務委員会の会期後、3人のスタッフがAPAYを去りました。2008年-2011年の4年間に、さまざまなスタッフの入れ替わりがありました。

まず、プログラム担当主任主事ジョシュ・ヴァルゲーゼ



APAY スタッフの集合写真(後列左から右へ):クリスティーナ・ベレス、エロイサ・ボレオ、フィオン・フォン、ブルース・ヴァン・フォーリス、アイリーン・チャン、ルイス・センパー、リチャード・ケイン、マンジュ・ジョシュ、ジョジュ・ジョシュ、ジョシュ・ヴァルゲーゼ。中央:山田公平総主事

氏が3月14日、2008年1月からの任期を終えました。ミッションに関するプログラムとAPAYの全般的な運営に携わってきました。特に、グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワークという重要なプログラムを開発し、環境問題、高齢化、平和と公正、地球市民に関するプログラムを行ってきました。昨年1月、通称ジョシュは、世界YMCA同盟のプログラム・アドバイザーとなりました。APAYでの任期の後、ニューデリーにあるインドYMCA本部のインドYMCA同盟において、運動強化とリソース・モビリゼーション担当主事となります。

ティナ・Vとして親しまれている、クリスティーナ・ベレス氏は、3月23日でユース・インターンとしての1年間の任期を終えました。昨年の3月から地球市民研修プログラム、ユース・アッセンブリーおよびアジア・太平洋YMCA大会の準備と運営に携わってきました。APAYにおける他の方針計画の課題に関わりました。フィリピンへの帰国後は、フィリピンYMCA同盟のスタッフとなります。

グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク(GATN)のヤング・プロフェッショナルであるルイス・センパー氏もまたAPAYを去る1人です。昨年11月、カンボジアで行われたGATNのワークショップに携わりました。

任期の途中で他の道を選んだ彼の最善を祈ります。

ダンカン・チョウドリー氏(パングラデシュ Y M C A 同盟)が 4 月から主任主事として着任します。また、ジュリア・ムン・パン氏(ミャンマー)が 3 月からユース・インターンを引き継いでいます。

APAY での職務を全うされたスタッフに感謝の意を表します。これから進む道がよいものでありますように。今までの貢献はとてすばらしく、これからも APAY のファミリーの一員です。APAY への貢献に感謝いたします。

YMCA ワールド・チャレンジ (YMCA World Challenge) 2012

YMCA ワールド・チャレンジの目的は、500 万人を動員し YMCA のストーリーを語ることです。あなたの YMCA ワールド・チャレンジの計画を始めて、活動を世界中に広めてください。2012 年、ともに歴史をつくりましょう!



総主事デスクより

APAY 常務委員会 (ECM): 主な決定事項と今後の方向性
2012 年 3 月 7-9 日 香港にて
アジア太平洋 Y M C A 同盟

総主事 山田公平



3 月の常務委員会に参加いただきありがとうございます。今年の委員会には 20 カ国から 100 人を越える参加者がありました。常務委員会の前後に、研修を組み入れ、忙しい 1 週間になりましたが、後半にはリソース・モビライゼーションの研修も行われ、これからの大きな流れを感じました。ここに簡潔に決定事項を報告します。

1. APAY 理事 (Board) 2 名の選挙が行われ、3 人の立候補者の中から Mr. Ng Yee Khai (マレーシアのユース) と Ms Nilani Manthrinayake (スリランカの女性) が選考されました。

2. ユース委員会 (委員長 Alvin Kan 香港、副委員長 Pilip Arumugam スリランカ) が 3 月 6-7 日に集まり、2012 年度の活動など幅広く話し合いました。

1) ユース代表 (Youth Representatives) をすべての国から 2 名ずつ推薦してもらい、APAY のユース委員会と共に今後のユース活動推進にあたります。

2) 7 月 17-22 日にシンガポールで行われる学生 Y M C A およびユース・グループの大会。シンガポール Y の 110 周年事業として開催。

3) ユース代表は今年 8 月 6-13 日にスリランカで行われる地球市民教育 (GCE) の指導者研修を受けてもらいます。そして 2013 年に 2 度目の研修を行い、今後各国で (主に加盟 Y M C A で) GCE 研修やユースによる活動の推進役になってもらいたいと思います。毎年この人たちの会合を開き、2014 年の世界 Y M C A 大会には APAY を代表するユースとして、また、2015 年のアジア・太平洋 Y M C A 大会にも参加を期待しています。

4) 2012 年の 10 月ごろにはインターナショナル・ワークキャンプを PSG の国のどこかで開催する予定。地球市民活動の一環として実施します。

3. フェロー・フォー・ユースのキャンペーンは、今年 2 年目に入りました。昨年は 57,000 ドルを確保し、多くのユースをさまざまな活動に参加してもらうことができました。今年の目標は 10 万ドル。常務委員会の時に 26,000 ドルを得ることができました。

4. ミッション委員会 (委員長 Song Indong 韓国、副委員長 Felician Francis スリランカ)。さまざまなグローバルな問題に対して、APAY としてどう対応するかが主な議題。環境問題、経済格差拡大、オルタナティブ・ツーリズムなどへの提案をするため 3 つのタスク・フォースができました。

1) グリーン・アンバサダー研修 (環境問題検討) は 5 月 21-25 日にタイのチェンマイで開催。今後各国で環境問題に取り組む専門性や関心を持っている人 1-2 名の参加を各国から期待。ただし、このトレーニングは 2 回 (2012 年ベーシック、2013 年はアドバンス) に参加し、専門性と具体的な活動を生み出せるようにするねらい。タスク・フォースが組織され、毎月検討会議を行います。

2) オルタナティブ・ツーリズム (観光プログラム) は、現

在 10-15 の Y M C A から旅行プランを検討してもらっています。でき次第、ネットに載せ、プログラムに参加する Y M C A の募集をする予定です。専門のホームページも製作中。タスク・フォースを組織しました。

3) ソーシャル・エコノミー (経済格差に挑戦する) は、これからの課題であり、今年の 12 月から来年 1 月に韓国でワークショップを開催する予定です。タスク・フォースを組織しました。

5. ジェンダー委員会 (委員長 Ann Thomas インド、副委員長 Emanuel Chan フィリピン): タスク・フォースを組織し、今後 2 年間で各国からのジェンダートレーニングのトレーナー候補者の研修を行います (2 年継続して同じ人が受講)。またタスク・フォースでは APAY のジェンダー Policy を検討することになりました。

6. 規約委員会 (委員長 Peter Malone オーストラリア、副委員長 Joseph John インド): タスク・フォースを組織し、モデルとなる規約を作り、各国 Y M C A の定款のモデルを示してガバナンスのあり方を問うことがねらい。次回 2013 年に APAY の規約、定款の検討が提案されました。

7. 財務委員会 (委員長 Wichian タイ、副委員長 Stephan Lo シンガポール): APAY の負担金 (Fair Share) が過去 10 年変わっていません。しかし、香港では毎年 5% 程度のインフレが続いており、2012 年度に一律 5% アップするという提案がされました。話し合いの結果、5% アップに原則賛成しました。しかし無理なところは 3% アップでも可とします。結果としては 4% 程度のアップが期待されています。各国で検討してもらいたいと思います。

8. GATF (特別ファンド) 委員会 (委員長 Philip Kwok 香港、副委員長 Chim Hou Yan シンガポール): 2008 年リーマンブラザー破綻で損失した 40 万ドルはその 98% が香港政府の方針で公共的な団体には返還され、APAY の GATF ファンドも元の額 100 万ドルを上回っています。今後の 4 年計画を進める上で、GATF ファンドからジェンダートレーニングとグリーン・アンバサダー研修の必要経費 30,500 ドルを支給することが決定されました。

9. 運動間協力、Y M C A 運動強化 (Movement Strengthening) は、今年から委員会ではなく、全体のセッションで検討されました。

1) 東ティモール: 日本と韓国、オーストラリアが支援国となっていたが、今後は南南協力関係を作る努力が必要と言う話になりました。5月26-27日に東ティモールでPSG

会合を行います。タイ、スリランカ、インドネシアなどにも声をかけます。

2) カンボジア: 2011 年は大きな展開が見られた。南南協力関係の必要性など検討されました。特に収入源を確保し、自立できる Y M C A 運動をめざす。10 月に PSG 会合を予定しています。

3) インドネシア: 同盟とスラバヤ Y 両方がそれぞれ戦略計画を作り、運動強化を進めていきます。9 月に PSG を開催する予定。

4) パキスタンとベトナム: カラチの現状が報告され、今後これら2国の状況にすぐに応じられるよう努力することが確認されました。

5) 自然災害への対応するためのワークショップが 4 月 30 日から 5 月 2 日までミャンマーで行われます。対応のあり方を検討し、いどこで災害が起きても対応できる Y M C A 組織作りの必要性を検討。Y ケア・インターナショナルと共催。

10. リソース・モビリゼーションの特別ワークショップ (研修) が開催され、15 の国から 30 人が参加しました。今後の予定は次のとおり。

1) 今後 4 年間で 8 カ国から 10 カ国を対象に各国でリソース・モビリゼーションのワークショップを開催する予定。1 年に 2-3 カ国で実施できる予定です。

2) 各国でのワークショップでは、何を目的に募金を集めるか検討、募金目標金額の確定、準備態勢の検討、アンニユアルキャンペーンの実施計画検討などを具体的に作り上げていく予定。

3) 成功事例などを次のワークショップでも取り上げていき、徐々に寄付文化の醸成を図り、具体的なリソース・モビリゼーションの実施へ踏み出して行きたいと思っています。

以上のようなところが主な決定事項です。各国の計画の中に取り入れて、APAY 全体で取り組めるようにしたいところです。そのために APAY 4 年計画を作りました。

最後に、多くの委員スタッフの積極的な会議や委員会への参加に感謝します。そして香港の 2 つの Y M C A の食事会開催にも心よりお礼を申し上げます。

発行元

アジア・太平洋 Y M C A 同盟

Asia and Pacific Alliance of YMCAs

23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong

tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692

e-mail: office@asiapacificymca.org